

# 日事 知る あの

秋田県知事

佐竹敬久



## ◎韓国で秋田のPR「秋田ダイニング」

十月二十日(火)

韓国の大韓航空本社を訪問した夜、ソウル市江南地区にこの秋開店した飲食店「秋田ダイニング」に食事に行ってみた。

「秋田ダイニング」は、県の韓国コーディネートネーターを務める朴省姫さんらが「大好きな秋田を韓国人にもっと知ってもらいたい」という思いからオープンしたものだ。県産の日本酒や稲庭うどんなど本場秋田の味覚のほか、韓国の人にも親しめるよう工夫された創作料理も堪能するこ

とができる。

店内には、秋田の観光映像を映し出すスクリーンのほか、男鹿のなまはげや湯沢七夕の絵灯籠も飾られており、本県の観光PRにも貢献いただいている。

県からの特別な資金援助なしで、秋田の「アンテナショップ」的な店舗をソウルで開いてくれたことは、本当にありがたいこと。まさに感謝に堪えない。

県では、この店を韓国での秋田の情報発信の拠点として、県産食材のパンフレットや観光PR画像を提供するなど、今後、さまざまな形で支

援していきたいと考えている。

ちなみに朴さんは、韓国の人気俳優イ・ビョンホンさんが主演するテレビドラマ「アイリス」の撮影を秋田に誘致する際に、交渉役を引き受けていただいた方でもある。今年十月から韓国で放送がスタートし視聴

率が三〇%を超えたと聞いた。お陰で県内の撮影地を訪れる旅行商品に韓国から多くの問い合わせが寄せられている。

日本で来年上半年期から放送予定とのこと。読者の皆さんにも是非ご覧いただきたい。

秋田ダイニング



## ◎ロシア・沿海地方行政政府等訪問と秋田港紹介セミナーの開催

十月二十二日(木)～二十三日(金)

秋田港と沿海地方の港とを結ぶコシエナ航路の早期開設と、同地方との経済交流促進のため、ウラジオストクを訪問した。

二十二日には、沿海地方行政政府のダリキン知事を訪問し、本県との経済交流を始めとする包括的な交流協定の締結に向け、協議を行っていく

ことで合意した。

翌二十三日には、ウラジオストクでは秋田県として初めての「秋田港紹介セミナー」を開催した。沿海地方の企業などを対象として行ったものであるが、参加者からは、実務ベースでの航路への期待、利便性などの質問や意見が活発に出されるなど、具体的・効果的に秋田港を紹介することができた。

昨年、秋田市長として訪問してから約一年が経過したウラジオストクは、二〇一二年のAPEC開催に向け、社会資本の整備が市内の至るところ進められていた。街には港町特有の活気があり、昨年秋からの世界的な景気低迷の中でも、底堅い経済成長を続けていることを実感した。

今後、日本、ロシア極東を含めた東アジア地域が世界経済の中心として発展していく中で、沿海地方と本県との交流が大きな役割を果たすことができればと期待している。

沿海地方・ダリキン知事と会談



◎自動車に「とうほく」発の新技術・新工法を

十月二十七日(火)

愛知県豊田市のトヨタ自動車株式会社サプライヤーズセンターにおいて、とうほく自動車産業集積連携会議が開催した「とうほく6県 新技術・新工法展示商談会」に出席、県内の企業が持つ自動車関連技術をPRした。

本商談会はトヨタグループ各社に対して、東北六県の企業が有する新

技術や新工法を提案するとともに、六県が連携して自動車産業の集積に取り組む姿勢をアピールするもの。今年、平成十八年に六県の産学官によって連携会議が設立されて以降、初めてトヨタ自動車本社で開催することとなった。

環境配慮や安全向上などの分野で、世界初や業界初となる新技術・新工法について、四十四のブースが展示され、秋田県からも「磁性粉によるノイズ抑制(三菱マテリアル電子化成株式会社)」「耐熱フッ素ゴムシール(株式会社秋田オイルシール)」「レーザスポット焼入れ(秋田県産業技術総合研究センター)」といった独自技術が提案された。

開催の二日間を通じて、トヨタグループ各社から、予定の千二百名を大幅に超える千七百十名の来場をいただき、会場では商談に向けた熱心なやり取りが交わされていた。

また、来場いただいたトヨタ自動車株式会社渡辺代表取締役副会長からは「このような商談会を通じて、

トヨタのニーズと東北の企業のシズがしっかりと結び付き、更に密接な連携が進むよう東北に大いに期待している」との感想が寄せられた。

二〇一〇年にはセントラル自動車株式会社の宮城県進出を控え、「東北」のトヨタグループ第三の生産拠点化に向けて、秋田県内企業が持つ技術を積極的に売り込んでいく努力を続けるとともに、盛会に終わった本商談会の成果に期待したい。



「とうほく6県 新技術・新工法展示商談会」